

# 青森公立大学 国際芸術センター青森のご紹介

鹿内 一徳

## 1. はじめに

2022年8月24日（水）、専修大学人文科学研究所の堀江先生をはじめとする14名の皆さんに青森公立大学国際芸術センター青森（Aomori Contemporary Art Centre）をご訪問いただきました。

当日の青森市は28℃を超える晴天の日で、日差しの厳しい中、施設見学に加え、当日開催されていたアーティスト・イン・レジデンス事業（指名型）の展覧会『景観観察研究会「八甲田大学校」』をご覧いただきました。

このレポートでは、2021年12月で開館20周年を迎えた青森公立大学国際芸術センター青森（以下、「ACAC」という。）についてご紹介いたします。

## 2. ACACの概要

ACACは、青森市の南部、八甲田山麓への入り口部に位置し、八甲田山麓のダイナミックな自然と特徴的な建築が生み出す環境を活かし、アーティストが滞在し作品制作を行うアーティスト・イン・レジデンス（AIR）、展覧会、教育普及を3つの柱として、現代芸術の多様なプログラムを発信するアートセンターです。

青森州市制100周年記念事業として設立され、2001年12月に開館し、現在は青森公立大学の附属機関として運営されています。

滞在制作を行うアーティストの招へい・公募、自主滞在問わず表現者の創造的活動の支援、優れた文化芸術の発信、活動が生み出す「繋がり」による国際的ネットワークの構築、市民・学生とアーティストの出会いや表現・学びの機会の提供などを通して、地域内外へと波及す



<国際芸術センター青森 展示棟全景>

る文化芸術の創造・発信の中心（センター）であることを目指しています。また、春から秋にかけては敷地内の森の散策や、22 点の野外彫刻の鑑賞もお楽しみいただけます。

ACAC の施設設計は、世界的な建築家である安藤忠雄氏によるものです。

周囲の自然環境を生かし起伏に富んだ地形を壊さないように配慮し、建物を森に埋没させる「見えない建築」をテーマとし、谷沿いに橋が架かるようなイメージの直線型の創作棟と宿泊棟、さらにギャラリーや円形の屋外ステージを備えた馬蹄型の展示棟の 3 つの建物と四季のアーケードで構成され、機能を固定しない「がらんどろ」の空間としてアーティストを刺激し、雪といった自然環境も含めて全体が展示空間となるよう意図されています。施設開館に先駆け 2001 年 11 月に建てられました。

### 【施設概要】

- ・ 設計者 安藤忠雄（安藤忠雄建築研究所）
- ・ 施設構成 展示棟、創作棟、宿泊棟、その他（四季のアーケード）
- ・ 建築面積 4,277.51 m<sup>2</sup>
- ・ 延床面積 4,015.06 m<sup>2</sup>
  - 展示棟：事務室、ギャラリーA（約 543 m<sup>2</sup>）、ギャラリーB（約 90 m<sup>2</sup>）、  
野外ステージ、AV ルーム、ラウンジ
  - 創作棟：木工スタジオ、銅版画スタジオ、ワークショップスタジオ、  
講義室
  - 宿泊棟：シングルルーム 8 室、ツインルーム 2 室、ダイニングルーム、  
浴室、ランドリールーム
- ・ その他 展示棟ギャラリーの空調は「雪室冷房」を設置している。  
園内に野外彫刻 22 点を配置している。

### 3. ACAC の経緯

1999 年 1 月、青森市政 100 周年事業の一環として「(仮称) 芸術創作工房整備基本構想」が発表され、青森市民の文化芸術への意識醸成、鑑賞機会や活動機会の充実を図るための「21 世紀型芸術文化振興拠点」として芸術と自然の調和を図りながら、アーティスト・イン・レジデンス (AIR) 事業を主事業とする施設整備の構想が策定されました。

基本構想策定にあたっては、「(仮称) 芸術創作工房整備基本構想」専門家会議において、当

時計画が発表されていた青森県「美術館建設基本計画」の内容を検討し、構想の基本理念として県の美術館との相違点を打ち出すこととし、AIR 事業を主事業とすることが協議されました。

県の美術館はいわゆる「ハコもの」であり、当時の市長の発想である「ハードではなく、ソフトにお金をかける」という考えに基づいています。

また、AIR 事業での招聘アーティストに制作作品の一定期間の展示義務を課し、それをもって市民還元し、入場料は有料としないことが協議されました。

当時の青森市長である佐々木誠造氏は、基本構想の中で「国際性」・「地域特性」のある優れた芸術文化を育ませ、市民の方々の芸術文化に対する意識と創造性を高める施設であると寄稿しています。

2001 年 12 月の開館当時、青森市教育委員会が所管し、事業運営も青森市直営で行っていました。開館当初から、将来的には運営を隣接する青森公立大学又は近隣のスキー場を運営する青森市観光レクリエーション振興財団（現 青森市文化観光振興財団）に移行することが協議されていました。

2009 年 4 月、隣接する青森公立大学の独立法人化に伴い、ACAC は青森市から公立大学法人青森公立大学へ出資・移管されることとなります。

青森公立大学は経営経済学部だけの単科大学ですが、ACAC の設置主旨を引き継ぎつつ、教育機関としての有効な活用をするため、以下のとおり ACAC の運営方針を定めました。

#### <新しい方針（指針）>

1. 市民の学術文化の向上と発展を図る。
2. 国際性、地域特性のある優れた芸術文化を創造発信していく。
3. 青森公立大学の建学の理念である「専門的な知識と同時に、教養を兼ね備えた人材の育成を教育目標とする」ことを踏まえた学びの場とする。

現在、教養科目として美術関連科目を 2 科目配しており、特にデッサンの実技科目である「芸



<国際芸術センター青森 空撮>

術の創造」では、ACAC を会場に講義を行っています。また、ゼミ活動やサークル活動のフィールドとしても活用されています。

#### 4. ACAC の事業

ここからは ACAC で実施している主な事業をご紹介します。

##### (1) 展覧会事業・地域資源活用事業

4 月から 6 月に開催する展覧会に焦点を当てた展覧会事業は、アーティストの既存作品及び滞在制作した作品の展示を行います。

また、併せて地域資源活用事業を開催し、青森県・青森市の文化財、民俗資料、所蔵する芸術品、青森県に所縁のあるアーティストの作品等の展示を行います。

##### (2) アーティスト・イン・レジデンス事業（指名型）

7 月から 9 月にかけて展覧会を開催する ACAC の主となる事業で、ACAC が指名するアーティストの方々が 5 月頃から滞在して、リサーチや市民交流等を行いながら制作した作品を展示します。



<ギャラリーA 展覧会風景>

##### (3) アーティスト・イン・レジデンス事業（公募型）

もう一つのアーティスト・イン・レジデンス事業として、参加アーティストを公募し、10 月から 12 月にかけて展覧会等を開催しています。公募により選出されたアーティストは、2 週間から 3 ヶ月半の期間を滞在し、リサーチや市民交流等を行いながら作品の制作と展示を行います。

##### (4) 市民交流事業

主に青森市民や学生を対象とし、芸術文化や ACAC の建物を活用したワークショップやレクチャーを実施し、参加者の創作意識の向上や学びの機会を設けています。開催時期は随時実施としています。

## <主な市民交流事業>

### ①暮らし・ものづくり講座

ACAC 設備を活用し、版画講座をはじめ、学生・市民ボランティアによる暗室使用のワークショップ、宿泊棟屋上農園での栽培ワークショップなど実践的な講座を実施します。

### ②野外彫刻関連事業

ACAC 内や青森市内に所在する野外彫刻を利活用するプログラムの実施や、経年変化していく野外彫刻を必要に応じてメンテナンスするプログラムを実施します。



<四季のアーケード>

### ③建築・自然観察ツアー

ACAC の環境を生かし、地域住民や建築・場所にまつわる記憶等の専門家と協働で行う建築や散策路のガイドツアーを実施します。

### ④アーティストによるワークショップ、トーク

若手から中堅のアーティストが自身の活動についてプレゼンテーションするトークや、ワークショップ、レクチャーを実施します。

### ⑤演劇、ダンス、パフォーマンス等公演

展覧会やアーティスト・イン・レジデンス事業で招聘が難しい分野の表現者による公演を実施します。

### ⑥芸術関連イベントへの協力

青森市、青森市民、任意団体等が行う芸術関連イベントへの人的派遣、企画などの協力を行います。



<小学生の創作体験>

## (5) 生涯学習事業

学校及び市民団体等と連携して創作体験などを展開し、生涯学習の場を提供しています。

①市内小学校等の課外活動の場として創作体験メニューを提供しています。

2022年度は26校、1,381人の児童が参加しました。

②中学校、高等学校に対する出張授業や職場体験を提供しています。

③市民団体等に対する創作体験を提供しています。

#### (5) 青森アートミュージアム5館連携協議会

2020年7月に設立され、青森県内の公設アート施設(青森県立美術館、十和田市現代美術館、弘前市れんが倉庫美術館、八戸市美術館、国際芸術センター青森)5館が共同で広報、イベントを企画し、青森県内のアート周遊のモデルを作ることで県内外からの誘客を図る取組みを行っています。

旅行雑誌、芸術雑誌等のメディア取材誘致、旅行者への周遊旅行商品作成の働きかけ及び受入れを行っています。

また、共通テーマイベントとして、著名な建築家が設計した各館施設を活用したイベントを展開しており、ACACでは市民交流事業「建築・自然観察ツアー」を実施しています。

さらに2024年度において、芸術祭「アートプロジェクト2024(仮称)」を開催する計画としています。

## 4. おわりに

青森公立大学は経営経済学部のみ単科大学で、2009年度4月の独立法人化の際に異分野の施設であるACACが青森市から移管されました。当時は学内でもその位置づけについて大きく戸惑い、議論が重ねられました。

その結果、高等教育機関として教育の場としての活用、地域貢献の場としての活用を新たな方針として掲げるとともに、ACACの設置主旨を踏襲した運営を行うこととし、現在に至ります。

現在の運営経費は設置者である青森市からの運営費交付金と国等の補助で運営していますが、運営費交付金は毎年削減されていく傾向にあること及び補助金等は不確定な収入であることから、更なる外部資金の獲得として入場料の設定が設置者から求められています。

施設の設置主旨や美術館と異なるアートセンターであることを鑑み、2021年度から入場料ではなく展覧会来場時や随時に受け付ける事業協力金(寄附金)をお願いすることとしました。

入場料とは異なり、確実な外部資金獲得とはいきませんが、施設の主旨に賛同いただける方々からのご協力をいただいております。

事業協力金を多く獲得することだけではございませんが、ACAC の意義や地域の芸術文化の更なる醸成を図るためには、多くの方々に ACAC に興味を持っていただき、来場いただく事が不可欠です。そのために学芸員をはじめとするスタッフ一同は運営及び企画に一層の工夫・努力をして参ります。

皆様も、お近くへお越しの際は、ぜひ青森公立大学国際芸術センター青森へお立ち寄りください。豊かな自然とユニークな現代アートの企画を用意してお待ち申し上げます。

#### ◇青森公立大学 国際芸術センター青森

〒030-0134 青森県青森市大字合子沢字山崎 152-6

TEL 017-764-5200

公式Webサイト <http://www.acac-aomori.jp/>

営業時間 展覧会 10:00～18:00

ラウンジ 9:00～19:00

休館日 年末年始(12/29～1/3)、大学入学試験に係わる日程

入場料 無料

アクセス ・ JR 青森駅からバスにて約 40 分

(「モヤヒルズ」又は「青森公立大学」行乗車、「青森公立大学前」下車)

・ 東北自動車道→青森自動車道「青森中央 I C」から約 5km

・ 青森空港からタクシーで約 25 分